

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	薬剤師の集中治療室常駐に伴う医師業務負担軽減と薬物治療の安全性向上に関する調査研究
研究責任者	堤 克成(薬剤部)
研究実施体制	聖隷浜松病院
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2022 年 9 月 30 日
対象者	2019年4月～2019年9月と2020年4月～2019年9月にICUに入院した患者さん
研究の意義・目的	2010 年 4 月に、厚生労働省医政局長より「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が示され、医療技術の進展と薬物療法の高度化に伴い、主体的に薬剤師が薬物療法に参加することが求められました。近年、一般病棟で内服薬の Protocol Based Pharmacotherapy Management: PBPM を薬剤師が実施し、その有用性を示す報告はありますが、集中治療室(Intensive Care Unit: ICU)で、薬剤師が薬物療法に参加し、その直接的効果を示した報告は未だ存在しません。 ICU では、患者状態が目まぐるしく変化し、筋弛緩薬・麻薬・高濃度電解質など多くのハイリスク薬が用いられています。薬剤指示から投与まで、迅速かつ正確な対応が求められ、薬剤の投与ミスを起こさないために、細心の注意が必要です。このような環境において、最適な薬剤選択、投与設計、安全な薬物治療の実践に、薬剤師は欠かすことの出来ない存在です。そこで我々は、ICUにおいてPBPMを通した処方支援、薬剤師が医師より指示を直接受け、治療を開始する体制を構築し、2020 年 4 月より運用を開始しました。 本邦において、アンケートを用いた医師業務負担軽減の報告はありますが、医師業務時間から直接的に業務軽減を調査した報告はないです。加えて、薬剤師が集中治療室に常駐する事で、安全性向上に寄与する報告も本邦には存在しません。そこで薬剤師のICU常駐が、医師業務負担軽減と薬物治療の安全性向上に及ぼす影響について、後方視的に調査を行います。
研究の方法	医師の業務負担、薬物療法の安全性の評価を研究します。医師業務負担軽減効果は、調査期間における「薬剤師の代行入力時間」および「医師の電子カルテ入力時間」を比較し評価します。安全性の評価は、調査期間における「IA レポート件数・内容」を比較し評価します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

係る手続き	
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 薬剤部 （氏名） 堤 克成 TEL:053-474-2222(代表) 9:00～17:00 平日